

32:15 モーセは向き直り、二枚のあかしの板を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。

32:16 板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

32:17 ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にかくさの音がします。」

32:18 するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

32:19 宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

32:20 それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上にまき散らし、イスラエル人に飲ませた。

32:21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

32:22 アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。」

32:23 彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』

32:24 それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りは

ずせ。』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」

32:25 モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

32:26 そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、主につく者は、私のところに。」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。

32:27 そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう仰せられる。おのおのの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」

32:28 レビ族は、モーセのことばどおりに行なった。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

32:29 そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのおのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、主に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

アロンは言い訳をしました。自分が偶像礼拝に関わったことを民にせいにし、また偶然に像ができたかのように言ったのです。このように神様に背くとき、私たちは言い訳をしがちです。そのような必要がないように、神様にしっかりと従いましょう。

「三千人が倒れた」とあります。この偶像礼拝において特別に常軌を逸した人々であったのでしょうか。それを許してしまったら、その後のイスラエルに多きな混乱が起きたとの判断であったと思われます。私たちは十字架によって赦されていますが、心の中の罪はこのようにきよめられなければなりません。今後の人生に混乱をもたらさ

ないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

